

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされておりますので、保護者様・来訪者様等の
閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

利用者調査とサービス項目
を中心とした評価手法

東京都福祉サービス第三者評価(2024年度) 評価結果報告書

2025年3月31日

株式会社グローバルキッズ
グローバルキッズ経済産業省保育室 御中

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿8-14-24
西新宿KFビル702

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号 機構 03 - 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋

押印
省略

以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評 価 者 (評価者養成講習修了者番号)	修了者番号		
	①	H0702006	
	②	H0902065	
	③	H1901083	
	④		
	⑤		
	⑥		
福祉サービス種別	認可外保育施設(ベビーホテル等)		
評価対象事業所名称	グローバルキッズ経済産業省保育室		
事業所連絡先	〒	100-8901	
	所在地	東京都千代田区霞が関1-3-1 経済産業省総合庁舎別館1階	
	TEL	03-6268-8750	
事業所代表者氏名	藤田 典子		
契約日	2024 年	6 月	1 日
利用者調査票配布日(実施日)	2024 年	10 月	4 日
利用者調査結果報告日	2025 年	1 月	28 日
自己評価の調査票配布日	2024 年	9 月	27 日
自己評価結果報告日	2025 年	1 月	28 日
訪問調査日	2025 年	2 月	4 日
評価合議日	2025 年	2 月	4 日
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目により行った。また調査開始時に書面の配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めた。 ・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がより的確なものとなるよう配慮した。		

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） ・子どもたちの未来のために ・豊かに生きる力を育てる ・子どもを中心に据え、家庭や地域との信頼関係を築き、環境を通して、人や物との関わりを大切にする ・子どもの安全と安心を基本として、自ら伸びる力を大切に、成長と個性に応じ多様性のある保育をする ・子どもの目線で、豊かな愛情をもって、一人ひとりの気持ちをしっかり受け止め、その主体的な活動を育む
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 一人ひとりの子どもの気持ちを受け止め、スキンシップを大切にチームワークで温かな保育ができること
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 感謝の気持ちを忘れず、謙虚でいること。子どもの命を預かっていることを念頭に置き思いやりを持って保育すること。そして子どもを愛すること。

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯5（在籍児童数5）を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。
回収は専用封筒を用い、回答者からの弊機関への直接郵送、または同方式と事業所内回収による未開封のままの弊機関への郵送の併用にて行った。
自由意見については回答者の匿名性に配慮し、表記の加工などの処理を適宜行った。

利用者総数

5

利用者家族総数（世帯）

5

共通評価項目による調査対象者数

5

共通評価項目による調査の有効回答者数

4

利用者家族総数に対する回答者割合（％）

80.0

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」100%と高い値を得ており、設問別でも「発達に配慮した保育活動」「子どもの興味・関心の伸長」「食事」「戸外活動」など、全17問中16問で100%の高い支持を得ている。
自由意見では「0歳児からわが子を預けさせてもらっていて、食事でも静かに楽しんで食べられ、友達とも思いやりを持って遊ぶことができるようになってきており、知的好奇心も深まり、どこを歩いても周りのものや土地・自然に興味を持つようになって、保育園でさまざまな経験をさせてもらっているおかげだ」「少人数のため職員の人たちが子どものことをよく見てくれていると感じ、今日はこんなことができた等、いつも教えてもらい、うれしく思っているほか、子どもも集団生活を楽しんでいると感じ、同じ省内で仕事をしているため何かあった時にすぐに対応できる点も助かっている」「少人数でよく見てくれている」との声が寄せられている。
要望などとしては、利用終了後の支援継続に関する内容が寄せられている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育施設での活動は、子どもの心身の発達に応じたものとなっているか	4	0	0	0
実質的な満足度（「無回答・非該当」を除いた割合・以下同）は、有効回答者4人全員（100%）が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				
2. 保育施設での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	4	0	0	0
有効回答者4人全員（100%）が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				
3. 【保育施設からの食事提供を受けている方のみ】 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	4	0	0	0
有効回答者4人全員（100%）が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				

4. 保育施設の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	4	0	0	0
有効回答者4人全員(100%)が「はい」となっており、「はい」の値は前回(2021年度、66.7%)から顕著な改善が見られる。 自由意見には記入がなかった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	3	0	0	1
有効回答者3人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には、保育の融通性について、保護者の体調や仕事以外の理由へのさらなる配慮を望む声が1件寄せられている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	4	0	0	0
有効回答者4人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	3	1	0	0
「はい」が75.0%、「どちらともいえない」が25.0%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育施設に信頼関係があるか	4	0	0	0
有効回答者4人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	4	0	0	0
有効回答者4人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	4	0	0	0
有効回答者4人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	4	0	0	0
有効回答者4人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	3	0	0	1
有効回答者3人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	4	0	0	0
有効回答者4人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	3	0	0	1
有効回答者3人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	4	0	0	0
有効回答者4人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	4	0	0	0
有効回答者4人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				
17. 外部の苦情窓口(行政等)にも相談できることを伝えられているか	2	0	0	2
有効回答者2人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見には記入がなかった。				

I サービス提供のプロセス項目（サブカテゴリ1～3、5～6）

No.	共通評価項目												
	サブカテゴリ1												
1	サービス情報の提供 サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5 評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している 評点(〇〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th><th>標準項目</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td><td>1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している</td></tr> <tr> <td>●あり ○なし</td><td>2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている</td></tr> <tr> <td>●あり ○なし</td><td>3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している</td></tr> <tr> <td>●あり ○なし</td><td>4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している</td></tr> <tr> <td>●あり ○なし</td><td>5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、行政機関等相談先に関する情報の提供をしている</td></tr> </tbody> </table>	評価	標準項目	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	●あり ○なし	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、行政機関等相談先に関する情報の提供をしている
評価	標準項目												
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している												
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている												
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している												
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している												
●あり ○なし	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、行政機関等相談先に関する情報の提供をしている												
	サブカテゴリ1の講評												
	ホームページやパンフレットを通じて園の情報を発信している 運営法人のホームページにある当園のページでは、経済産業省の総合庁舎別館内1階にある事業所内保育所として、定員に地域枠を設け、千代田区民であれば利用可能であることを伝えている。園の保育目標と保育方針、施設の基本情報や系列園共通の取組等を掲載するほか、施設を紹介する動画の視聴を通じて、園の様子をイメージできるようにしている。また、ホームページに掲載している情報をまとめたパンフレットを用意し、見学者に配付できるようにしている。 区の各種媒体を通じて、園の情報が得られるようになっている 千代田区のホームページでは、地域枠を設けて区民を受け入れる事業所内保育所として、園の所在地や連絡先の情報を掲載するほか、施設を紹介するパンフレットがダウンロード可能となっている。区の関連窓口や区内の出張所、児童館等で配布される区の冊子「保育園・こども園等の入園案内」には、延長保育料金や地域枠の定員、通常保育や延長保育の時間などの情報が掲載されるほか、「子育て応援!! ガイドブック」では、区内に所在する保育施設に関する情報が一覧化されるなど、区の各種媒体からも園の情報が入手可能となっている。 見学の受け入れは柔軟な対応を心がけ、園の取組や特徴を説明している 見学は曜日を決めて、週1回子どもが活動している様子が見られる時間帯で行うほか、見学希望者のニーズに合わせた日時等での対応にも努め、電話等で申し込みを受け付けている。当日はパンフレットや、玄関に備え置いているファイル、廊下の掲示物などを活用して園の概要や取組等を説明するほか、施設内を案内しながら、施設の特徴であるホールや室内の水遊び場等を紹介し、日常の様子や保育内容などを伝えている。入園が困難な場合は、相談先などの情報提供を行うこととしている。												

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
	●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
	●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
	●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
	●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評			
入園時には利用開始にあたっての説明と同意確認を行っている 入園内定後には、入園時の面談とともに利用開始にあたっての説明を行い、重要事項説明や個人情報の取り扱いに対する同意を、書面への署名・押印によって確認している。重要事項説明書や「ご利用案内」をもとに、法人や施設の概要、保育の理念・目標・方針、個人情報の取り扱いなどの重要事項や、体調不良や感染症罹患時の登園の基準などの保健面に関する依頼事項のほか、入園後の持ち物等の準備物などについて説明している。適宜質問に回答して、不明点や不安の解消に努めている。			
入園後の支援に向け、保育開始に必要な情報を面談で確認している 入園後の保育開始に備え、提出書類や入園前の面談で親子の情報を把握し、必要な支援等につなげられるようにしており、保護者が記入・提出する児童票や「入園前までの生活状況」などの書類に不足がないかを「新入園時面談確認表」で確認している。これらの書類を参照しながら、保護者の保育に対する意向、子どもの生活状況や健康・発達状態を聴き取っている。アレルギー等の健康上の配慮が必要な場合は、個別の支援に活かせるよう、詳細な情報を確認している。面談で得られた情報は組織内で共有を図り、共通認識のもとで支援を行えるようにしている。			
利用開始時の親子の不安に配慮し、利用終了後の関係継続にも努めている 不慣れな環境で生活を開始する子どものストレスや負担を和らげられるよう、入園直後には保育時間を少しずつ延ばしてゆく「慣れ保育」を行っている。保護者の就労や子どもの状況に応じた期間を面談時に相談のうえ設定し、期間中の子どもの様子等に応じて日程を再調整している。降園時には、エピソードを添えて日中の子どもの様子を口頭で伝えて丁寧な対応を心がけ、保護者にも安心してもらえるよう努めている。卒園後には、事業所内で保護者と会った場合には近況を確認するようにしている。			

サブカテゴリ3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている	○非該当

評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している			評点(〇〇)
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している		☐ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている		☐ 非該当
サブカテゴリー3の講評			
子どもの発達や意欲の状況を踏まえた計画を策定し、適切な援助に活かしている 入園時には、所定の書式によって、家庭の状況のほか、入園までの生活や予防接種の状況などの情報を把握している。その後も定期的に個々の成長の状況を確認し、発達経過を記録するほか、日々の様子は個別日誌として保育アプリ内に入力しており、保育者間で共有できるようにしている。また子どもの発達の状況や興味・意欲を踏まえて、個別指導計画を作成している。計画内に記したねらいや配慮を職員間で共有し個々に応じた援助を行えるよう、計画の内容を職員会議で確認することとしており、職員相互の相談や助言が行われている。 全体的な計画をもとに長期・短期の計画を作成し、実践後には振り返りを行っている 保育目標や保育方針のほか、年齢別の成長の姿や人権尊重・社会貢献等に関する考え方や方針が記された全体的な計画をもとに、年齢別の長期・短期の保育計画を作成している。月間指導計画には、子どもの姿から養護と教育の領域ごとのねらいを立て、具体的な活動内容を記した週案に展開させている。計画は周期ごとに振り返りを実施し、次の計画に反映させており、保育室内の環境構成を変更した場合には、その内容を図にして残している。保育計画に加えて、食育・行事・避難訓練等の計画も作成している。 保護者に保育の目標のほか、子どもの姿や成長の見通しを伝えている 毎月の園便りには、子どもの姿とともに、保育内容や月のねらいを記載している。日々の連絡帳のやり取りでも子どもの姿を保護者に写真を添えて伝えている。保護者会は年2回実施しており、年度当初の回では、子どもたちがこの1年で成長する見通しの姿や園の保育方針を伝え、年末付近の回では、1年間の成長した子どもたちの姿を伝えて保護者と喜びを共有し、今後の成長の見通しも伝え、安心して子育てができるようにしている。また保護者代表と園代表による運営委員会を開催し、行事や保育について報告している。			

サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当
サブカテゴリー5の講評		
子どもの羞恥心などへの配慮に努め、個人情報利用に関する同意を保護者に確認している 子どもたちの成長に合わせて羞恥心が芽生えることを考慮し、環境を設定している。トイレでのおむつの着脱の際には、衝立を使用して周囲からの視線を遮り、素早くおむつを替え、ゆったりとした空間で衣服の着脱ができるようにしている。また衣服を脱ぐ必要のある身体測定の際には、窓のロールカーテンを下ろして近隣の視線を遮っている。入園時には利用目的を明らかにしたうえで、個人情報の取り扱いについて、保護者の同意を確認するほか、ポスターなど写真を使用する際には、そのつど了承を得ることとしている。 子どもの自己表出への受容と共感や、心情に寄り添ったトラブル対応に努めている 指導計画には子どもの人権への配慮に関する項目を設けており、個々の意思を尊重するよう努めている。援助の際には子どもの意思を確認し、まだ言葉でうまく意思を伝えられない子どもたちとの関わりでは、保育者は表情や仕草などから心の動きを読み取るよう心がけている。また自分の意思を伝える力を育めるよう、子どもたちの自己表出への受容と共感を心がけ、子どもたちのトラブルへの援助の際にも、加害・被害の二項対立とせず、双方の気持ちへの寄り添いや代弁に努めている。また個々の体質への配慮にも取り組んでいる。 職員が人権擁護を学んで保育を振り返り、保護者には価値観を踏まえて対応している 入園時やその後のコミュニケーションを通じて、保護者の価値観や育児に対する考え方を把握し、園で対応可能な援助・配慮に努めている。保育者の子どもの人権に関する意識の啓発に向け、人権に関する研修に職員を派遣し、研修で得た情報をもとに職員間で話し合っており、日頃の子どもたちとの関わりを振り返る機会となっている。家庭での育児不安や虐待の早期発見に向け、登園時には子どもの表情や傷の有無などをさりげなく確認し、日々の様子との違いや違和感があれば、上長に報告することとなっている。		

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
サブカテゴリー6の講評		
系列園共通の手引書を整備し、随時参照できるようにしている 法人が作成する「GK保育ガイドブック」や「保育者実践ガイドブック」には、職員としての姿勢、目指す保育や実践時の配慮事項など、系列園共通の保育の方針が示され、入職時に職員への配付と研修での啓発が行われている。系列園共通の手引書「危機管理マニュアル」「保健衛生マニュアル」には、緊急時の対応や保健・衛生に関わる手順などが示され、休憩室に設置して職員が閲覧できるようにしている。これらは職員専用のアプリでの閲覧も可能となっているほか、現場には必要な手順書やフロー図を掲示し、随時参照できるようにしている。		
手引書類の見直しや、業務の一定水準を確保するための仕組みが設けられている 系列園共通の手引書類については、国等の各種のガイドラインや通知等の改訂に応じて法人が見直しを行い、改訂事項等をメール配信や施設長会議を通じて発信する仕組みとなっている。職員は定期的に救急救命講習を受講し、必要時の適切な対応に備えている。法人が策定した人権養護ガイドラインをもとに、担当職員による会議等での共有と振り返りも行っている。またコンプライアンスや人権に関する動画研修と確認テストも実施するなど、業務の一定水準を確保するための仕組みを設けている。		
保護者の声や子どもの姿をもとに保育等の見直しを行っている 保護者が参加する行事後にはウェブアンケートを実施し、収集した感想を次年度の企画の参考にしている。運営委員会では保護者の意見・要望などを聴き取っており、子どもたちの交流機会の創出を望む声を踏まえて、今年度系列園の園児との交流を開始し、保護者から好評を得ている。日々の対話などで保護者から寄せられる要望には、組織内で話し合い、可能な個別の支援につなげている。日々の生活の中で子どもの姿をとらえて、職員間で話し合っ室内の環境の見直しを行うなど、保護者の声や子どもの姿をもとに保育等の見直しに取り組んでいる。		

Ⅱ サービスの実施項目(サブカテゴリー4)

サブカテゴリー4	
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 37/37
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている 評点(〇〇〇〇〇)・非該当1	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている 〇非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している 〇非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している 〇非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している 〇非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつ等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている 〇非該当
☐ あり ☐ なし	6. 【5歳児が利用している保育施設のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている ●非該当
評価項目1の講評	
子どもの発達や興味を把握して、個々に応じた援助を行っている 子どもの発達や興味は、保護者とのコミュニケーションや日々の生活や遊びの様子から把握しており、定期的に記録に残している。把握した子どもの状態や成長の見通しをもとに個人別指導計画を作成し、必要な援助につなげている。日頃の対話や会議などを通じた職員間の情報共有に努めており、それぞれがとらえた子どもの姿を伝え合うことで、子どもの理解につなげている。また保育室内の環境構成についても、子どもの発達や遊び方を踏まえて、適宜見直しを行っており、変更の履歴を図として残し、その後も活用できるよう工夫している。 異年齢の子どもたちによる育ち合いを促し、発達相応の体験も保障している 0歳児は歩行が安定し、さまざまな興味が見られ始める様子から、異年齢で過ごす時間を設けている。年上の子どもが、自分より年下だと意識して、そっと関わろうとしたり、優しく撫でてあげるなどの姿が見られるほか、年下の子どもは年上の子どもの遊びの様子を見てまねながら、遊び方を学ぶなど、年齢の異なる子ども同士の育ち合いが促されている。発達相応の活動と体験の保障にも努めており、時間によって遊ぶ場所を分け、細かな玩具を提供したり、身体を動かして活発な遊びができるようにしたりするなどの配慮に努めている。 発達に応じたトラブルへの対応や、一人ひとりの特性への配慮に努めている 発達の過程で生じるトラブルでは、子どもたちの心に寄り添った援助を心がけており、かみつや引っかきなどがあつた場合には、かみついてしまった気持ちを認めて保育者が言葉にし、また相手の子どもが痛がっていることや、やり取りの方法を伝えている。玩具の取り扱いなどが起こりやすい場合には、玩具の配置場所や周囲の状況、玩具の数を見直すなど、環境設定の見直しを行っている。個別の配慮が必要な場合には、特性や対応を職員間で共有して適切な援助に努めるほか、巡回相談などでさまざまなアドバイスを受けている。	

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息・午睡等の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

登降園時には、保護者と子どもの様子を伝え合っている

登園時には、子どもたちの様子から健康状態や機嫌を読み取るほか、昨夕からの家庭での様子や体調の変化の有無を保護者から聴き取り、園での生活リズムや過ごし方の参考にしている。聴き取った内容は「健康観察記録」に記入し、口頭での伝達も併せて行い、全職員がすべての子どもの状況を把握するよう努めている。降園時には園での活動内容に加えて、些細な子どもたちの様子も伝えることで、保護者と成長を喜び合えるようにしており、体調の変化やケガの有無などの状況については、より丁寧に伝え、保護者の安心につなげている。

子どもが身の周りのことに関心を持ち、自分でできるよう個々に応じた援助を行っている

子どもたちが身の周りのことに関心を持ち、自分でできるよう個々に応じた援助を行っている。発達状況や興味を保育者間で話し合うことで、状況に合わせた適切な援助につなげている。保育者は、子どもたちのやる気が芽生えた際の心の動きを、表情や仕草から見逃さず、そのタイミングで、自分でできた喜びを感じられるように援助に努めている。また自分で服を手に取りれるように棚に収納したり、ゆったりと衣服の着脱に取り組める環境などを設定したりするほか、年上児の行う姿を見て真似できる環境を用意するなど、環境構成の工夫にも取り組んでいる。

休息はそれぞれの生活リズムに合わせて適宜取れるよう、環境を整えている

休息はそれぞれの生活リズムに合わせて適宜取れるよう、環境を整えている。起床時間や体力に合わせて午前寝を行えるよう対応するほか、状況に合わせてゆったりと寝転べる空間を設けている。午睡は食後眠くなった子から布団に向かえるようにしており、入眠への援助は、安心できる保育者のそばで、個々の好みやペースに合わせて行うようにし、睡眠中は身体の向きや体温、呼吸の状態を定期的に確認・記録するなど、SIDS対策を講じている。また脱水症状を防ぎ、心身のリフレッシュを図れるよう、水分補給は定期的に行っている。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが人と関わる力を養えるよう援助している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 子どもの心身の発達が促されるよう、戸外・園外活動(外気浴を含む)を実施している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもが自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	☐ 非該当

評価項目3の講評

発達や興味に応じた室内環境の工夫や、遊びの展開を促す声かけを行っている

保育室内は、遊びごとにコーナーを作ってスペースを分けることで、遊び場所がわかりやすくしている。また玩具は発達や興味に合わせて内容を適宜見直すほか、設定方法や数を調整している。2部屋を使い分けることで、粗大運動を実施したり、発達に合わせた活動も行えるようにしたりするなど、工夫している。0・1歳児が大半を占めるため、子どもの遊び方は、自分の世界に入り込んで遊ぶ「ひとり遊び」が中心となり、保育者は子どもの集中を尊重しつつ、様子を観察しながら、隣への意識を持てるよう声かけを行い、遊びの展開を促すようにしている。

子どもたちの言葉の獲得を促す援助を行い、遊びの内容を考慮している

子どもたちが周囲の音に触れて、言語を獲得してゆく時期であることを踏まえ、保育者は聴き取りやすい発音を心がけ、できるだけ口元の動きを見せながら過ごすよう心がけている。子どもたちが一緒に音を発することを楽しめるような絵本を選んだり、遊びの中で季節の歌などを歌い、さまざまな言葉や音に親しみを持てるようにしている。子どもたちが集まって行う朝の会では、順に子どもたちの名を呼んでお互いの名前を意識できるようにするほか、子どもたちが喃語で話そうとしている際には、ゆったりと応答的に関わり、発語を引き出す関わりに努めている。

感性を育む活動を実施し、子どもたちがさまざまな体験を重ねている

感性を育む活動を実施し、子どもたちがさまざまな体験を重ねている。散歩では近隣の公園へ出向き、公園内の木々や草花から季節の移り変わりを感じたり、自然の不思議に出会ったりしており、保育者は子どもの気づきへの応答や、気づけるような声かけを行っている。また音楽に合わせ、身体を動かしてリズム遊びを楽しんだり、絵の具やさまざまな素材に触れながら季節の制作を行ったりするなど、表現活動を楽しみ、いろいろな感触に触れられるよう、小麦粉粘土や寒天、片栗粉などを用意して実際に触れて感覚を刺激する活動を採り入れている。

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している 評点(〇〇〇)												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="156 280 327 309">評価</th> <th data-bbox="327 280 1468 309">標準項目</th> <th data-bbox="1348 280 1468 309"></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="156 309 327 380"> ☒あり ☐なし </td> <td data-bbox="327 309 1348 380">1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している</td> <td data-bbox="1348 309 1468 380"> ☐非該当 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="156 380 327 459"> ☒あり ☐なし </td> <td data-bbox="327 380 1348 459">2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している</td> <td data-bbox="1348 380 1468 459"> ☐非該当 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="156 459 327 537"> ☒あり ☐なし </td> <td data-bbox="327 459 1348 537">3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている</td> <td data-bbox="1348 459 1468 537"> ☐非該当 </td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	☐ 非該当
評価	標準項目												
☒ あり ☐ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	☐ 非該当											
☒ あり ☐ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	☐ 非該当											
☒ あり ☐ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	☐ 非該当											
	評価項目4の講評												
	季節感のある文化的な行事に取り組み、雰囲気に触れられるようにしている 季節ごとに伝承される文化的な行事では、低年齢児が対象であることを踏まえつつ、紙芝居やパネルシアター（パネルによる劇表現）などを用いて行事の意味や物語を紹介するとともに、歌を歌ったり、風習や遊びを楽しんだりするなど、複数の活動を関連させて行い、雰囲気に触れられるようにしている。ハロウィンでは庁内の他の保育所との交流の機会を持ち、子どもたちが簡単な仮装をして地域の公園で待ち合わせて交流し、「新年子ども会」では餅つきのまねをするほか、コマ遊びや広いスペースでの凧遊びを楽しむなど、お正月遊びを経験している。 誕生会やクリスマス会では、保護者を園に招き、子どもたちと過ごす時間を楽しんでいる 園に保護者を招き、子どもたちと過ごす時間を楽しむ行事を行っている。毎月の誕生会はその月の誕生児の保護者を招き、保育者の出し物を楽しむほか、誕生児の紹介や写真撮影などを行い、みんなで歌をプレゼントしており、子どもの成長を喜び合う機会となっている。またクリスマス会も保護者参加の行事とし、保育者によるハンドベルの演奏、パネルシアターやサンタクロースとの写真撮影など、親子でクリスマスの雰囲気を味わい、ハンドベルの演奏には保護者も参加できるようにするなど、親子で楽しめる工夫がなされている。												

5	評価項目5 在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇)
	評価	標準項目	
	☒ あり ☐ なし	1. 在園時間の異なる子ども同士が楽しく遊べるよう配慮をしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 在園時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	☐ 非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 在園時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	☐ 非該当
	評価項目5の講評		
	保育時間が長くなる子どもたちが、健康的に安心して過ごせるよう配慮している 保育時間が長くなる子どもたちが健康的に過ごせるよう、健康観察を行い、安心して過ごせる環境を整えている。個々の保育時間を考慮し、長時間保育を含めた1日の生活リズムを意識して援助しており、視診などの健康観察を行い、体調の急変に備えている。また昼食やおやつの喫食状況や睡眠時間を把握し、状況に応じて無理なくゆったりと過ごせるよう、必要に応じて午前寝や夕方の睡眠を採り入れている。ソファの設置など、子どもたちがくつろぎ、身体を休めて過ごせる環境づくりに努め、心身のリフレッシュを図れるよう、水分補給も適宜行っている。 保育時間が異なる子どもたちが、楽しみながら過ごせるよう工夫している 保育時間が異なる子どもたちが、楽しみながら過ごせるよう工夫している。保育室の環境は月に一度は見直す機会を持つようにしており、子どもたちの興味や関心を職員で確かめ合いながら、必要な玩具や空間を整えている。子どもが順次降園する夕方の時間帯には、日中の保育室には設定していない玩具を用意して、新鮮な気持ちで遊べるようにするほか、庁舎内の中庭やエントランスなどの建物内の散歩に出かけ、さまざまな景色を眺めて気分を変えるなどして過ごしている。また子どもたちの様子で保育室を移動し、身体を動かせるスペースで過ごすこともある。		

6 評価項目6

子どもが安全な環境のもと食事を楽しめるよう配慮している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが安全に食事をとれるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	5. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動、保護者や地域の多様な関係者との連携等）を行っている	○非該当

評価項目6の講評

子どもがさまざまな料理を楽しく食べられるよう工夫している

献立は2週間で1サイクルとし、同じメニューを複数回体験できるようにするほか、季節の食材を中心に、栄養バランスを考慮して作成している。子どもたちの食べ方や食べ具合を保育者と調理者で確認し、野菜の大きさや具材の切り方の参考にして調整している。子どもたちがさまざまな食材を経験できるよう、無理はさせずに、少しずつでも食べられるよう声かけを行っている。季節や行事に合わせたメニューを採り入れて、行事に触れながら楽しく食事が採れるよう工夫したり、ランチョンマットを敷くなどして、視覚的にも楽しめるようにしている。

子どもの体質や成長・発達に合わせた食事を安全に提供できるよう、対策を講じている

離乳食は、家庭で食べた食材を、リストを用いて確認し、家庭で2回ほど食べた経験のある食材を提供するようにしている。調理者も食事の様子を観察し、個々の咀嚼の状況などを確認しながら、必要に応じて個別に切り方や硬さを調節し、家庭とも食事の様子を共有しながら進めている。また食物アレルギーの診断を受けている場合には、医師の診断に基づいて保護者と面談を行い対応について協議し、事前に保護者に献立の確認をするほか、食事の提供の際には複数職員で確認するなど、対策を講じている。また宗教による食事にも対応している。

子どもたちが食に興味を持てるよう、食育活動を行っている

子どもたちが食に興味を持てるよう、食育活動を行っている。年間食育計画をもとに、毎月の会議で保育者と調理者が話し合い、子どもたちの様子に合わせて活動計画を立案している。キャベツやトウモロコシ・カボチャなど、食材に触れる機会を設けている。子どもたちは食材に触れた後の食事に、その食材が使われていることで親近感がわき、口にする様子が見られている。また行事に合わせてお月見団子を作ったり、クッキー作りやおにぎり作りなど、子どもたちができる範囲での調理保育を実施するほか、きのこの栽培をするなど、栽培の経験も設けている。

7 評価項目7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの体調変化(発作等の急変を含む)に速やかに対応できる体制を整えている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの入退所により環境に変化がある場合には、入所している子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している	○非該当

評価項目7の講評

子ども自らが衛生や安全を意識できるよう取り組んでいる

0歳児には登園時に職員が寄り添って手洗いを援助するほか、散歩からの帰園後には、声かけ等によって手洗いを促している。手洗い場に手洗いの手順を示したイラストを掲示し、子どもが自ら行えるようにして、習慣として定着できるよう取り組み、清潔を保つことや、病気の予防に対する意識を高められるようにしている。散歩時や公園で遊ぶ前には、職員から交通マナーや安全に遊ぶための約束事を伝え、ケガ防止につなげるほか、折々の子どもの様子に応じた安全面の配慮が行えるよう、朝礼等で子どもの状況を共有している。

体調面や健康面を確認するなど、子どもの健康の維持・管理にあたっている

日々の子どもの体調面は、登園時に子どもを受け入れる職員による健康観察と保護者への口頭確認、連絡アプリの確認に加え、検温を行って把握している。所見等があれば組織内で共有を図り、当日の配慮につなげるほか、園長が定期的に子どもたちの様子を確認している。急な体調変化やケガには園長が対応することとしている。園医とは必要に応じて相談できる体制を整え、各種健診を通じて定期的に子どもの健康状態を把握している。また職員は嘔吐処理の手順確認や救急救命講習の受講を通して、必要時の適切な対応に備えている。

子どもの健康維持や感染予防などに向け、保護者にさまざまな情報を提供している

入園時には、SIDSと園の対策、感染症に罹患した際や体調不良時の登園の基準、与薬などの保健面に関する約束事を説明し、集団生活をする子どもたちが健康的に過ごせるよう、保護者に協力を依頼している。また、法人作成の保健便りでは、健康維持のための留意事項等の季節に応じたトピックを掲載して啓発を行っている。園児が感染症に罹患した際は、掲示により園内の発生状況を伝えることで保護者の注意を喚起するほか、区や法人からの感染症情報を保護者とも共有し、まん延防止と予防の協力を依頼している。

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 保護者の養育力向上のため、保育施設の保育の活動への参加を促している	☐ 非該当

評価項目8の講評

保護者との対話や状況に応じた支援に努めている

日々の登降園時には、保護者とのきめ細やかな対話を心がけている。また、保育参加時には保護者の要望に応じて面談も実施している。日々の対話で寄せられる保護者からの育児の相談に応じ、園での対応を検討して可能な支援につなげている。フレックスタイム等の保護者の就労形態に応じた登園時間で子どもを受け入れるほか、急な残業による延長保育のスポット利用にも柔軟な対応に努め、可能な範囲での補食・夕食を提供している。

行事等への参加を通じて保護者同士の交流を促し、養育力の向上を支援している

保護者が行事参加への見通しを持ち、予定を立てやすいよう、年度当初には年間の行事予定を配付するほか、園便りには毎月の行事予定を掲載している。誕生会やクリスマス会等の行事への参加を通じて、保護者同士が交流を行えるようにしており、保護者会では、話しやすい雰囲気づくりを心がけながら、保護者同士・保護者と職員の親睦が深まるようにしている。また保護者会では、年齢ごとの子どもの発達の目安や特徴を伝えるほか、保育参加では、保育者の声かけ等の子どもの関わり等も見てもらい、保護者の育児の一助となるようにしている。

さまざまな方法で子どもの様子や園の取組等を保護者に伝えている

日々の子ども一人ひとりの様子は、降園時の口頭での報告に加え、写真にコメントを添えた「ドキュメンテーション」の通信アプリによる配信で保護者に伝えている。廊下には、折々の行事や食育活動、制作や室内遊びなどの活動を撮影した複数の写真を掲示している。園便りを通じて各クラスの年間や月の目標、折々の子どもの成長や取組を報告するほか、保護者会では年間のクラス目標を伝えている。運営委員会では、子育て支援や他園との交流等の今年度の方針を伝えるなど、さまざまな方法で子どもの様子や園の取組を発信している。

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている 評点(〇〇)			
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="width: 15%;">評価</th> <th style="width: 70%;">標準項目</th> <th style="width: 15%;"></th> </tr> </table>	評価	標準項目	
評価	標準項目			
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;"> ☒あり ☐なし </td> <td style="width: 70%;">1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している</td> <td style="width: 15%; text-align: center;"> ☐非該当 </td> </tr> </table>	☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当		
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;"> ☒あり ☐なし </td> <td style="width: 70%;">2. 保育施設の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している</td> <td style="width: 15%; text-align: center;"> ☐非該当 </td> </tr> </table>	☒ あり ☐ なし	2. 保育施設の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 保育施設の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当		
	評価項目9の講評			
	地域の資源を活用し、子どもたちの交流や体験の機会を設けている 活動の目的に合わせて園周辺の公園に積極的に散歩に出かけて、身体を思いきり動かして遊び、季節の移り変わりを感じている。雨天時には施設が入居する省庁内を散歩し、花壇に植えられた花を見たりすることもある。近隣の施設のエントランスで行われる元力士による餅つきのイベントに、給食時間を早めて子どもたちが参加している。NHK博物館に出かけて展示されている人形を見たり、3年に1回行われる近隣の祭りで移動する山車を見学したりするほか、他省庁で行われるイベントにも参加するなどして、多様な体験を得られるようにしている。 子どもたちが職員以外の大人や同年代の子どもたちと交流できる機会を設けている 散歩の道中や散歩先の公園では、行き交う人々と挨拶を交わしたり、皇居では、車で移動する天皇陛下に手を振って挨拶をしたりしている。近隣の系列園の園児との交流を開始し、公園で待ち合わせをして砂場で一緒に遊んだり、ハロウィンでは園児が仮装して訪問したりして、ふれ合いを楽しんでいる。また、近隣にある保育施設の子どもたちが来園して、室内遊びを一緒に楽しむ機会を設けるなど、子どもたちが職員以外の大人や同年代の子どもたちとふれ合う機会を設け、社会性の育ちを促している。			

Ⅲ 利用者保護に関する項目

利用者保護に関する項目		標準項目実施状況	9/9
1 評価項目1 利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			
評価		標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当	
2 評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			
評価		標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当	
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当	
3 評価項目3 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる			
評価		標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当	
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当	
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	○非該当	
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当	
利用者保護の講評（※利用者保護の内容から3つ（必須）記載してください）			
苦情解決制度や保護者の意向を把握する仕組みを整備している 苦情解決制度については、保育内容に関する相談・苦情の受付に関する項目を重要事項説明書に掲載し、入園時に説明するほか、園内での掲示により制度の窓口となる第三者委員の氏名や連絡先の周知を図っている。玄関に設置する意見箱でも保護者の要望・苦情等を受け付けられるようにし、法人と連携して速やかに回答する体制を整えている。運営委員会や行事後に実施するアンケートなどを通じて、全体・個別の意向等を把握し、行事や保育等の園運営全般の見直しの参考としている。 家庭での虐待の早期発見や不適切な関わりの防止に取り組んでいる 虐待の定義や種類、発見のポイントや園の役割、関係機関との連携などの虐待の防止に関わる手順等を「危機管理マニュアル」に定めており、職員は日々の視診等での早期の発見に努め、兆候を察知した際は関係機関に通告し、連携を図る仕組みとなっている。子どもの人権に配慮した保育の実践に向け、子どもとの適切な関わりを法人作成の「GK保育ガイドブック」「保育者実践ガイドブック」に定め、入職時に学んでいる。また昨年度策定した人権擁護ガイドラインをもとに、担当職員が研修で学んだ内容を共有し、組織内での振り返りを行っている。 各種リスクに備え、手引書を整備し、訓練等を行っている 火災等の災害や事故・ケガの発生と対応、不審者対応など、各種のリスクの発生に備えた手引書類や、自然災害を想定したBCP（事業継続計画）を整備している。地震や火災を想定した訓練を毎月行うほか、体調の急変等に備えて、職員は救急救命の講習を受講し、心肺蘇生や嘔吐処理の手順を確認している。法人から配信される系列園の事故等を組織内で共有し、事故・ケガの防止に役立てるほか、園内や公園の危険箇所を確認し、一部についてはレイアウト図に示すなどして、事故等の未然防止に取り組んでいる。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル①	地域資源を活用した体験機会や地域との交流機会の充実に取り組んでいる	
内容①	保護者の要望を踏まえて、今年度地域との交流に取り組んでいる。近隣の系列園とは、ハロウィンで園児が仮装して訪問したり、近くの公園で一緒に遊んだりする機会を設けている。また近くの他の保育施設から同年代の園児が来園し、室内遊びを一緒に行っており、今後も活動の充実を図る予定でいる。今年度は園から少し離れた新たな公園に行き遊んだり、近隣の施設で行われる元力士による餅つきに参加したりするほか、他省庁で行われるイベントにも参加して、魚釣りゲームを楽しんだり、めだか・鯉の品評会を見学したりしている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル②	保護者との良好な信頼関係の形成に向けて情報の発信に取り組んでいる	
内容②	事業所内保育施設という特性を活かし、保護者との日々のきめ細やかなコミュニケーションを図り、子どもの日々の様子を口頭で報告するほか、通信アプリで配信する「ドキュメンテーション」に掲載する写真やコメントでも伝えていく。園便りでは、折々の活動や子どもの成長の様子を発信している。また、廊下の写真掲示は定期的に更新し、行事・散歩・制作・室内遊び・食育活動など各種の活動を報告するなど、子どもの様子の細やかな発信を通じて、保護者との信頼関係の形成につなげ、安心して子どもを預けてもらえるよう取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもたちの興味や発達の状況に応じた遊びの提供や、生活動線を確保するための環境構成の工夫と情報の蓄積に取り組んでいる
	内容	子どもたちの興味や発達は、日々の様子や保護者との対話から把握しており、状況に応じた遊びの提供や生活動線の確保を考慮し、環境構成を毎月見直している。遊びのコーナーの位置関係や、発達段階に応じた玩具の内容、粗大運動を行うための部屋の使い方などについて、職員の気づきをもとに検討が行われ、更新後の状況を平面図に残している。図には配置や玩具の内容だけでなく、想定される子どもの姿や配慮すべき危険防止への対策なども記載し、援助に活かすほか、情報を言語化して蓄積することで、その後も参考として活用できるようにしている。
2	タイトル	規模の小さい園の特徴を活かし、全ての職員が全ての子ども様子を把握し、それぞれに応じた援助を行っている
	内容	個々の発達の様子は、発達経過の記録や個人別の計画、日々の保育日誌等により把握し、記録している。毎月の職員会議では、子ども一人ひとりの様子を話し合っており、各保育者がとらえた成長や姿を持ち寄り、また必要な援助や対応を共有している。小規模園の特色を活かし、すべての職員がすべての子ども様子を把握し、援助にあたることで、子どもにとって安心できる環境・援助の提供につなげている。また保護者との丁寧なやり取りにも努めており、朝礼等の情報共有の仕組みを通じて、些細なことでも職員間で共有できるようにしている。
3	タイトル	子どもたちがさまざまな経験ができるよう、多様な活動を取り入れている
	内容	戸外活動を行っており、周囲の公園で季節の移り変わりや自然の不思議に触れたり、虫を探したり、ドングリなどの自然物の収集などを行い、集めた自然物を用いた楽器を作って遊ぶ取組などもなされるほか、時には足を延ばして東京タワーまで向かっている。また室内では歌を歌ったり、音楽に合わせて踊ったりするほか、季節に合わせた制作など、表現活動を実施している。小麦粉・片栗粉や寒天・新聞紙などを用いた遊びも取り入れ、夏には水遊びスペースで水に触れる機会を設けており、季節の伝承行事では歌や遊びなどを通じて文化に触れている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	業務の一定水準を確保するための今後のさらなる取組と工夫を期待したい
	内容	職員が働きやすい環境となるよう、園長は職員とのコミュニケーションを図りながら、笑顔あふれる明るい職場づくりに注力している。一方で、手引書類に定められた手順の徹底に向けた、組織内の共通認識を形成する機会を設けることを課題として今後取り組む予定とするほか、感染症の流行を想定したBCPの策定も進めることとしており、今後の取組を期待したい。室内環境の見直しを行い、その効果を職員間で確認しており、これらの取組の実績を文書化して園のノウハウとして蓄積し、継承して活用してゆく工夫も一考されたい。
2	タイトル	子どもの生活の幅を広げられるよう、地域の資源を活用した交流の機会のさらなる充実を図りたいと考えている
	内容	今年度は地域の資源を活用して、各種のイベント等に参加して多様な体験を得られるようにしている。また保護者の要望を踏まえて、近隣の系列園や他の保育施設との交流を開始している。ハロウィンや近くの公園での遊びを通して系列園と交流するほか、他の保育施設の園児とは室内遊びを楽しんでいるが、さらなる交流の機会の充実を図りたいと考えており、今後の園の取組に期待したい。
3	タイトル	
	内容	